

# ぼちぼちいこっ！

2001

ゆーたは2001年の3月に小学校を卒業しました。  
卒業式に、僕はPTA会長として、祝辞をしました。  
そこにはゆーたの姿はありませんでした。

この年ほど、表面的な変化とは別に、いろんな事を考え、悩んだ年はなかったかもしれません。

「子どもと向き合う」とはよく言われます。しかし、それがどんなにしんどく、大変なことかということをややと言うほど感じた一年であったと思います。

「ぼちぼちいこっ！」もほとんど発行しませんでした。

それだけ、色々な事がありすぎたのか、それとも僕自身、毎日を記すことすらイヤになっていたのか、それはわかりません。

今にして思えば、それでも何かしら残しておけば良かった、とも思いますが、そういう時もあるでしょう。

もう一つのメールマガジン「子育て・学校・子ども達……」の一部を入れました。

あまりにも空白期間が多すぎて、自分で何を考えていたのかわからなくなってしまいました（笑）

# 目次

2001年1月	4
新しい年 -2001/01/02(火) Vol.240-	4
猫... -2001/01/03(水) Vol.241-	5
プーニャ -2001/01/15(月) Vol.242-	6
手術 -2001/01/18(木) Vol.243-	7
2001年2月	7
タイムカプセル -2001/02/02(金) Vol.244-	7
b B -2001/02/05(月) Vol.245-	9
寝息 -2001/02/14(水) Vol.246-	10
添い寝 -2001/02/16(月) Vol.247-	11
2001年4月	11
【子育て・学校・子ども達.....】 -2001/4/30(月) -No.74-	12
2001年5月	12
定年ゴジラ -2001/05/22(火) Vol.248-	12
【子育て・学校・子ども達.....】 -2001/5/23(水) -No.75-	13
カーナビ -2001/05/26(土) Vol.249-	16
2001年6月	17
地震 -2001/06/01(金) Vol.250-	17
2001年7月	17
誕生日 -2001/07/06(金) Vol.251-	17
わき腹 -2001/07/09(月) Vol.252-	18
プー -2001/07/10(火) Vol.253-	19
リンダ -2001/07/11(水) Vol.254-	20
富士北麓 -2001/07/27(金) Vol.255-	21
2001年8月	22
変! -2001/08/13(月) Vol.256-	22
おばあちゃん -2001/08/14(月) Vol.257-	22
ナビちゃん -2001/08/15(水) Vol.258-	23
カヤック -2001/08/16(木) Vol.259-	23
2001年9月	24
フリーマーケット -2001/09/24(月) Vol.260-	24
P2計画 -2001/09/25(火) Vol.261-	25
ニコレット -2001/09/27(火) Vol.262-	26
ちゅらさん -2001/09/29(土) Vol.263-	26
2001年11月	27
和歌山 -2001/11/13(火) Vol.264-	27
2001年12月	28
検定試験 -2001/12/02(日) Vol.265-	28
【子育て・学校・子ども達.....】 -2001/12/03(月) -No.78-	29
廊下 -2001/12/04(火) Vol.266-	31
ミュウ -2001/12/05(水) Vol.267-	32

スゴイ！	-2001/12/06(木) Vol.268-	.....	33
役立たず	-2001/12/07(金) Vol.269-	.....	34
神戸	-2001/12/09(土) Vol.270-	.....	35
生徒手帳	-2001/12/12(水) Vol.271-	.....	36
物言い	-2001/12/13(木) Vol.272-	.....	36
とりとめもなく	-2001/12/31(土) Vol.273-	.....	38

# 2001年1月

新しい年 -2001/01/02(火) Vol.240-

いつもなら9時にでもなるものなら、

「ママっ！ 寝るよっ！」と女房が何をしていても、布団に引っ張り込むゆーただが、今年は21世紀になるからだろうか、除夜の鐘を突きに行く、と言い出して張り切っていた。

「一眠りして、起きられたら行けば良い」

日頃の習慣から、多分無理だろうと思いつつ、そう言った。

僕は行くつもりではなかった。

そして年越しそばを食べ、9時を回った頃、女房とゆーたは一眠りを決め込んだ。布団に寝ると起きられないからと、僕の指定席、ホッとカーペットに二人して。

：\*：\*’° 。：\*：\*’° ° ’\*：\*..：\*：\*’° 。：\*：\*...\*：

10時半を過ぎた頃、突然、ゆーたがガバッと起き出した。

「ママ、もう時間だよ！ 行かなくっちゃ！」

「ママは、喉が痛いからやめる。おじいちゃんとおばあちゃんで行っておいで」

女房は、突然、たたき起こされたせいもあるだろう、ホントに調子悪そうに言った。

「まだ、大丈夫だから、もう少し寝たら？ おこしてあげるから！」

と年賀状を作りながら、僕は言ったが、ゆーたは聞く耳を持たず、下に降りて行った。2階に戻り再び女房を起こそうとするが、なかなか女房もしぶとい。女房に邪険にされるゆーたを見て、

「じゃ、パパも行くからみんなで行こう！」

僕もゆーたに加勢して、女房をたたき起こした。

：\*：\*’° 。：\*：\*’° ° ’\*：\*..：\*：\*’° 。：\*：\*...\*：

11時半に我が家をでて、近所のお寺についたのが40分頃だった。

「去年は少し前に来たら、もう、車が道にいっぱいだった！」

とはおばあちゃん。

除夜の鐘を突く順番を書いたカードをもらった。

26番から30番が、僕たち家族の番号だった。

鐘を突き、甘酒をもらって今度は隣の神社へ。

神主さん達が居並ぶ前には既に10人くらいに人たちが並んでいた。

「後、15分もあるよ」

「でも、せっかくだから並ぼうよ」

ゆーたと僕は腕時計を見ながら、「後、10分...5分...3分...」と。

気がつくと、僕たちの後ろにはかなりの人たちが並んでいた。

後ろの方の若いグループがカウントダウンを始めた。

「9...8...7...6...5...4...3...2...1...0！」

デジタル時計が瞬時に「01 1 1 00:00」と切り替わった。

新しい年が来たんだ、と思った。

：\*：\*’° 。：\*：\*’° ° ’\*：\*..：\*：\*’° 。：\*：\*...\*：

じいちゃん、ばあちゃん達との同居生活は何かとストレスがたまることが多いのも事実だが、そんな僕たち夫婦とおじいちゃん夫婦との「かすがい」としてゆーたは我が家にとって、大切な役割を果たしてくれている。

ゆーたがいてこそ、我が家は「五人家族」となる。

2001年、いや、ゆーたに言わせると21世紀の瞬間を、我が家は5人で迎えることができた。

あけましておめでとうございます。  
月並みな言葉ですが、やはりこの言葉が良いですね。  
今年もよろしくお祈りします  
猫を飼いたい、とゆーたが昨年から言っています。  
その粘りは驚異的なものがあります。飼ってみようか、と思っていますがいかんせん、猫の知識があまりにも乏しいので、躊躇してます。(^^)

猫... -2001/01/03(水) Vol.241-

僕が猫を嫌いになったのは、小学校の頃だったと思う。

従姉妹が

「OSM君、ほら、これが化け猫だよ」

といきなり絵を見せられた。

従姉妹は絵がとてもうまく、心底怖かった。何かを真似したのだろうが、その時から、「猫は化ける = 怖いもの」という認識が生まれたように思う。

また、二つ年上の姉が買ってきた、少女漫画にも必ず怖い漫画が連載されていて、その主人公(?)は、大抵「猫」か「蛇」に相場は決まっていた。

:.:・'° 。 .:~:・'° ° '・:~:.. .:~:・'° 。 .:~:~:~:~:~:~:

女房と話を以前からしていた。「動物による心の癒し」ということから、ゆーたにとっても、プラスの面があるのだろう、と。

しかし、同時に生き物を飼うということは、人間のひとりよがりではいけない。「命を育てる」という覚悟がなければいけないということもわかっている。

「飼いたい、飼いたい」というゆーた。

本能的に猫が苦手な僕。

そんなことは言っていられないなあ、と思い、タベひとしきりインターネットで猫の飼い方のHPを読みふけた。そして今日、三人で本屋に行って猫の本を二冊買ってきた。

一冊は「世界の猫カタログ」、もう一冊が「猫の正しい飼い方、暮らし方」

:.:・'° 。 .:~:・'° ° '・:~:.. .:~:・'° 。 .:~:~:~:~:~:~:

猫に対する認識がずいぶんと変わってきた。

「恐怖」の対象であったがために、今まで遠ざけていた「猫」がずいぶんと近くに感じられるようになった。

同時に、猫を飼うとしたら、ゆーただけではなく、僕たちの生活も大きく変わっていくだろうと言うことがわかった。

生き物を飼うために必要な「覚悟」の形がだいぶはっきりしてきた感じがする。

:.:・'° 。 .:~:・'° ° '・:~:.. .:~:・'° 。 .:~:~:~:~:~:~:

ゆーたが学校に行かないことが当たり前になった。  
しかし、何かしらの変化が欲しいのも、また事実。  
その変化が「新しい家族＝猫」ということになるのかもしれない。  
最終的に飼うにしても、ゆーた自身に、インターネットで調べさせたり、ペットショップを回ったり、時間をかけて考えさせたいと思う。  
最後の世話は僕がやるにしても、迎え入れる以上は、丁寧に迎え入れてやりたいと思う。

ゆーたはロシアンブルーが良い、なんて言ってます。  
僕は写真を見ながら「化け猫」のイメージと結びつかないものばかり、見えています。( ;´\_`;) )  
今日まで女房の実家。明日、明後日は八ヶ岳へ雪遊びです。お正月モードを満喫してます。

## プーニャ -2001/01/15(月) Vol.242-

この間僕たち三人は、何度この名前を呼んだことだろう？  
一昨日の土曜日のお昼前、プーニャは僕たちの家族の一員として、我が家にやってきた。7月27日生まれ  
のロシアンブルーのメス。  
2年間のお年玉8万8千円をゆーたが出した。  
その値段が高いか安いかわ、正直、一般的な価格から言えば少々高いと感じたが、値引きの話は今回しな  
かった。  
迎え入れるまでに何度かペットショップに出かけていくうちに、パソコンのパーツを買うのとはわけが違  
うと思ってしまった。ゆーたのお年玉の事を考えると、少しでも安く、と思わないではなかったが、小さな  
「いのち」に対して「高い」だ「安い」だと言うのは、何とも気が進まなかった。  
んならペットショップで買わなければ、とも思うが、一日でも早く、狭いゲージの中にとじ込められてい  
る仔猫を我が家に迎え入れてやりたくなった。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° ' .:\*:.. .:\*:~'° 。.:\*:~'~\*:

ホットカーペットに寝転がっているゆーたの横にプーニャがごろんとしている姿は、何とも言えない。  
テレビの裏、本棚の隙間、ディスプレイの上、我が家の中にこれほど隙間があったのかと気づかされた。  
「傷がつくから、本棚とか家具の上には乗せないようにしてよ！」  
そう言っていた女房が、  
「食卓とガスレンジの上はだめだけれど、他はしょーがないねえ」  
と言い出すのに一日とはかからなかった。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° ' .:\*:.. .:\*:~'° 。.:\*:~'~\*:

こここのところ、急に冷え込んできた。  
夜遅くまでパソコンに向かってしていると、膝の上に乗ってくる。  
タバコを吸いに行って部屋に戻ると、姿がない。  
暖かいからだろうか？ ディスプレイの上に置いてある、f a xの後ろ側の狭いところにいたりして  
……。

この二日、女房公認でホットカーペットで寝た。  
シュラフをかけて寝入ってしまうのだが、気がつくとプーニャが潜り込んでいる。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° ' .:\*:.. .:\*:~'° 。.:\*:~'~\*:

ご飯をあげることと、トイレの掃除をすることはゆーたの仕事。

とはいえ、こちらが言わないといけない。

「プーニャ、ご飯だよ！」

それでも、ゆーたは一生懸命、世話をしているつもりのようだ。

それはそれで、また微笑ましい。

猫がこんなに可愛いものだとは思いませんでした。

プーニャの行動、姿にこの二日間、我が家の中には笑い声が絶えません。

## 手術 -2001/01/18(木) Vol.243-

昨日、病院と手術の日程を確認した。

一応、予定では3月1日入院、3月5日手術。

勿論、この日程はゆーたには知らせていない。

「ゆーたはもう、ダメだから」

と手術の話が出てからというもの、この言葉を口にすることが特に多くなってきたような気がするが、「2月頃手術」ということは、ゆーた自身が、よくわかっているんだと思う。

:.:.:'° 。 .:.'° ° '.:'. .:.'° 。 .:'.:'.:

シャントの入れ替え手術については、看護婦になったかつての教え子が「先生、大丈夫だよ。脳外科にしてみれば、盲腸みたいなものだから」と言ってくれた。

ゆーたが生まれて半年に、シャントを入れる手術を受けたときも、担当医はそう言った。

しかし、ゆーたはその簡単な手術を受けて、失敗したのだった。

ホンの初歩的なミスだった、と医者は言う。

皮膚の下を通す管が、首筋の辺りで皮膚の上に出てしまったというのだった。

ゆーたはシャントを抜く手術を受け、そしてもう一度、シャントを入れ直す手術を受けた。ただ、麻酔から醒め、泣き叫ぶゆーたに、僕たちは何もしてあげられなかった。

:.:.:'° 。 .:.'° ° '.:'. .:.'° 。 .:'.:'.:

できることなら手術などしたくない。

やらないで済ませられるものなら、何度もそう思う。

ゆーたも12歳。

自分のことがわかってきているだけに、誤魔化しや嘘はきかない。

だからこそ余計につらい。

気が重くなってしまいそうだけれど、そんな時、プーニャが心を和ませてくれてます。 プーニャが来て、僕が一番救われているかもしれないなあ、と。

## 2001年2月

タイムカプセル -2001/02/02(金) Vol.244-

25年後のゆーたへ

パパは...、いや、「パパ」なんて言い方自体が可笑しい年にお互いになっていることだろうね。でも、仕方がないかな？

25年後、タイムカプセルを開けた時、ゆーたは37歳。  
パパは68歳、ママは65歳になっている。

どこで何をしているんだろうか？

パパはタイムカプセルの中に、この「ぼちぼちいこっ！」を初めとしたメールマガジンや色々なデータをCDに焼き付けておこうと思う。

でも、25年後には、へたをすればCDなんてのはなくなっているかもしれないなあ。ま、その時はその時だ。

昔はこんなのにデータを入れていたんだなあ、とでも思ってくれればいい。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° !~\*:~.。.:\*:~!° 。.:\*:~!~\*:

手術を目前に控えて、最近「2月で寿命だから」と繰り返すゆーた。

考えてみれば、いくら運命とはいえ、つらいことばかりだったよな。

それは誰が悪いのでもない。でも、様々なハンディを持ったゆーたは、結局自分自身を責めることで、心の平衡を保とうとしている。

ゆーたが自分自身のすばらしさや、生きることの酸っぱさと大切さ、命の輝きというものを感じるようになるのは、まだまだ先のこともかもしれない。

でも、いつかは必ず気がついてくれると、パパもママも思っている。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° !~\*:~.。.:\*:~!° 。.:\*:~!~\*:

昨日、ダダで西川さんと話をしたとき、西川さんは「ゆーた君ってとっても愛嬌のある子なんですよ」と。

パパは言った。

「女房と二人でよく言います。ゆーたは変にすれてしまっている最近の子ども達のことを思うと、ホント可愛い子どもだと思っています」って。

これ、親ばか、って言うのかもしれないね。(^^ゞ

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° !~\*:~.。.:\*:~!° 。.:\*:~!~\*:

昨日は中学校の入学説明会だったけれど、パパは行かなかった。

行けば色々な資料や話が出てくるだろうしね。

学校なんて別に対したモンじゃないぞ。

パパの思いは、ますますつよくなってきているよ。

ゆーたの存在は、パパやママにとっては、かけがえのないものだし、ゆーたがいることによって、パパはたくさんのことを教えてもらっている。

もし、ゆーたが生まれてすぐに手術をしたり、ハンディを背負ってこなかったら、パパはきっと教師を辞めてなかっただろうし、きっと、もっともっと傲慢な人間になっていたと思うよ。

ホントありがとう。



でも、これはパパの理屈。

ゆーた自身が、この世に生まれて良かった！ パパとママの子どもで良かった！ そう思ってくれる日が来てくれたら、嬉しいな。

:.:.'° 。.:\*.'° ° '.:\*:. .:\*.:'° 。.:\*...\*:

25年後、この手紙を読んでいるときには、パパはとてもじゃないけれど、恥ずかしくて、ゆーたの顔を見てもらえないと思う。

読むときは、一人でこっそりと読んで欲しいし、パパにあれやこれや聞かないで欲しいな。きっとまともな返事が出来ないと思うよ。

25年後、さすがにおじいちゃん、おばあちゃんは100歳を超えているからこの世にはいないだろうな。願わくば、パパもママもゆーたも、そしてゆーたの家族(?)も、健康であって欲しいということだな。

フルマラソンを走っていたいと思うよ、パパは。

今から、色々なデータをCDに焼き付けて封印します。

では、それまで！

25年前のパパ より

明日、小学校のタイムカプセルを埋めます。

クラスの方にはあまり気乗りがしないらしく、「大人達のタイムカプセル」に我が家も入れることにしました。女房もなにやら書きました。そしてプーニャの写真を埋めます.....。

b B -2001/02/05(月) Vol.245-

アッという間の出来事だった。

1月18日の12時過ぎ。自宅に戻る途中で雨が降り出した。

小学校のすぐ側の上り坂だった。ここは子ども達の通学路にもなっており、曲がりくねった見通しの悪い坂、ということで危険個所とされているところだった。

右カーブ。下ってくる軽自動車が見えた。

次の瞬間、運転席のドアに軽が突っ込み右サイドをえぐっていった。

その衝撃で、僕の車はガードレールにぶつかり停車。

左サイドを思いっきりぶつけた。

:.:.'° 。.:\*.'° ° '.:\*:. .:\*.:'° 。.:\*...\*:

「この野郎！」と思って車を降りたが、先方は年配の女性。オロオロしているのがよくわかった。とりあえず110番通報。相手のセンターラインオーバー。過失は先方が100%。同時に懇意にしているネットヨタの営業マンに連絡を入れた。彼もすぐにかけてくれた。

僕の車は、左右のドアが大きくへこみ、フロントも飛び出すような状態だった。

「修理してもさうとうかかるでしょうね」と彼は一言

:.:.'° 。.:\*.'° ° '.:\*:. .:\*.:'° 。.:\*...\*:

「修理代は70万円かかります。年式が古いので相手からは、最大限の50万円くらいしか出ないだろう」とのこと。

そのワゴン車は、僕の友人の形見。

正直ためらった。

自分でプラス20万円を出して修理をするか。

それとも新車を買換えるか.....。

結局、あちこち出かけたりする時の車であり、もし万が一、ということを考えて新車を購入することにした(といっても、お金を出すのは女房です)。

：\*・°'。..\*・°' °'・\*:.。..\*・°'。..\*::\*:

幸いなことに僕も先方の女性も怪我はなく、車がダメになっただけ。

ラッキーだったと思う。

いくらこちらに過失がなく、下取り「0」の車が、50万円になったとはいえ、相手が大けがをしていたりしたら、とても「ラッキー~！」なんて喜んではいけない。

：\*・°'。..\*・°' °'・\*:.。..\*・°'。..\*::\*:

昨日、示談書を作成して後は新車が来るのを待つだけになった。

車は発表当時から「いつかこの車を買いたい！」と叫び続けていた「b B」。

みんなに言わせると「若者が乗る車だろ？」と。(..)

塞翁が馬、かな？

ホント、いくらこちらが気をつけていても、何が起きるかわからない、と。

車なしではいけない社会だけれど.....。

その時、横を子どもが歩いていたら、と思うとゾッとします。

子ども達が交通事故に巻き込まれないことをただただ祈ります。

寝息 -2001/02/14(水) Vol.246-

昨日から女房は修学旅行に出かけ、金曜日の夜まで帰ってこない。

必然的に、夜、ゆーたは僕と寝なければならない。

女房がどんなに遅くなくても、ゆーたは一緒に布団に入らないと寝られない。一人が怖いのだ。小学校も終わるといのに、というのは世間一般的な話であって、ゆーたには通用しない。

昨夜も仕方なく僕と寝た。

そして今夜も。

いつになったら一人で寝られるんだろうか？

今度の入院の時は、完全看護だから一緒には付いていけない。

ホント大丈夫なんだろうか？

：\*・°'。..\*・°' °'・\*:.。..\*・°'。..\*::\*:

今日も疲れていたらしく、すぐに寝入ってしまった。

昼寝をした僕は、なかなか寝付かれず、ゆーたの横顔を見ていた。

随分と大きくなったものだ.....。  
ゆーたの寝顔を見るのは、久しぶりのような気がする。  
次々と色々なことを思い返した。  
ゆーたの静かな寝息を聞きながら.....。

女房が帰ってくるのは、金曜日。早く買ってきて欲しいと思うのは、何もゆーただけではない。(笑)  
明日の朝は、豚汁と、ふりかけ、スクランブルエッグ、それだけ！

## 添い寝 -2001/02/16(月) Vol.247-

一昨日女房から携帯に連絡が入った。  
「う～ん、とっても楽しい！ だって3時間滑りっぱなしだモン！」  
スキー場では、生徒達はインストラクターが指導をするから、教員はホントに引率。一緒に楽しめる時間はたくさんある。もっとも、何か事故が起きないように、神経は使うが.....。

:.\*:.'° 。 .:\*.:'° ° ' .:\*.:'° .:\*.:'° 。 .:\*.:'\*:

考えてみれば、女房がゆーたと一緒に寝なかった夜は、この12年間で数えるしかない。  
生まれてすぐの入院の時の1ヶ月ほど。  
今回のような修学旅行が1、2回あったろうか？  
小学校に上がる前の手術、入院の10日ほど。

それ以外は、よほど遅くならない限り、ゆーたは女房の帰りを待っていて「ママ、寝るよ～」だ。  
また、スキー場や家族で出かけても、結局は「ママ、ママ」。  
ゆーたを切り離しての生活など、ないに等しかっただろう。

こんな時、女房が仕事を持って外に出ていて良かったと思う。  
もし、これが逆で、四六時中、ゆーたと女房が顔を合わせていたら、どうなっていたらだろうか？ きっと、女房は育児ノイローゼになっていたのではなかろうか、などと思ってしまう。

:.\*:.'° 。 .:\*.:'° ° ' .:\*.:'° .:\*.:'° 。 .:\*.:'\*:

3日間、一つの布団でゆーたと寝たけれど、やっぱりしんどい。  
寝返りを打てばゆーたとぶつかるし、時には布団を奪われるし。(--;)

「一体いつになったら」という女房の言葉は切実だと痛感した。  
しかし、こればかりは、「いついつまで」と言うように期限を切るわけにいかない。ゆーたが「一人で寝るよ」というまでは。

朝食、この二日間、ゆーたは下で食べました。僕がもっと早く起きれば良かったのですが、ついつい...(笑)  
「ママのいない生活」も今日で終わり。帰ってきたときのゆーたがどんな反応をするかが見物です。

## 2001年4月

新しい展開...

結局ゆーたは6年生の間、学校に行くことなく小学校を卒業していった。

僕は、PTA会長としてゆーたの顔のない卒業式で祝辞を述べた。

4月、ゆーたは中学生になった。

僕は、ゆーたを家に残して入学式に顔を出した。

真新しい制服に身を包んだ、ほんの少し前のゆーたのクラスメートは、急に大人びた顔つきに見えた。

：\*：\*！° 。 .：\*：\*！° ° '！\*：\*.. .：\*：\*！° 。 .：\*：\*...\*：

3月にゆーたはシャントの入れ替えの手術のため、13日間入院した。

僕たち夫婦は静岡の病院まで、毎日200km、車で往復した。

手術は無事終わった。

前回の手術から6年の間があった。

待合室でただただ待ち続ける時間、何もかもが悪い方にばかり考えてしまう時間.....。とにかくゆーたの事しか考えなかった2週間が終わった。

：\*：\*！° 。 .：\*：\*！° ° '！\*：\*.. .：\*：\*！° 。 .：\*：\*...\*：

PTA会長としての一年間は、やはり忙しいものだった。

ゆーたに繋がるから、と思いつつもその忙しさの中で、何度も僕はゆーたを忘れようとしていた。

：\*：\*！° 。 .：\*：\*！° ° '！\*：\*.. .：\*：\*！° 。 .：\*：\*...\*：

後、2ヶ月ほどでゆーたも13歳になる。

最近、女房と話をする。

この先、僕たち家族はどうしていったらいいだろうか？

ゆーたはもう「子ども」ではなくなっていくのだ。

その現実はどう立ち向かっていくのか.....。

なかなか答えは見つかりそうもないが、ゆっくりゆっくり具体的な答えを見つけて行かなくてはならないのだ、と。

## 2001年5月

定年ゴジラ -2001/05/22(火) Vol.248-

土曜日の夜7時半からNHKで放映されている3回連続のドラマ。

仕事一筋に生きてきて定年退職をした後、ぼっかり空いた心の穴を埋めるべく右往左往する主人公。そしてそれを取り巻く家族、同じ境遇の団地の男ども.....。

今週の土曜日で終わってしまうが、女房と二人で、ゲラゲラ笑いながら見ている。そして笑いながらも、何とも言えない寂しさを感じたりもする。

：\*：\*！° 。 .：\*：\*！° ° '！\*：\*.. .：\*：\*！° 。 .：\*：\*...\*：

ゆーたに少しでもよかれと思って関わったPTA役員としての2年間が終わり、ゆーたも小学校を卒業し、中学校に形の上では入学した。

特にPTA会長としての一年間は、何と慌ただしかったのだろうと、役員を降りてみて初めてわかった。しかし、その慌ただしさ、忙しさは決して辛いものでもなく、それなりの充実感を僕に与えてくれていた。

.:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'.:\*:.。.:\*:.'° 。.:\*:.:.\*:

「どうせゆーたは居なくなっただけいいんだ！」

「どうせ役立たずだから！」

ゆーたが不安定になると決まって口にするこの言葉。ゆーたなりに自分の存在する意味を問うているんだろう。それと同じように、今、僕に突きつけられていることが、さて、次は何をする？ と言うことなんだろう。

女房とこれから先の話をよくするようになった。

女房もよく「疲れた、もう辞めたい」を口にする。

その気持ちは僕にもよくわかる。

でも、じゃあどうするんだ？ となると途方に暮れる。

ゆーたも含めた僕たち家族のこれからをどう作り上げていくのか、ということになると、何も見えてこない。

見えない、見えないと言っても何も見つからないことはわかっていても、どちらに向かって動き出していけば良いのだろうか.....？

欠けてしまった奥歯が痛くてたまらなくなり、とうとう歯医者に行ってきた。チュイーーン、キュイン~！

今、麻酔が切れ始めて、物が食べられない.....。(;\_;)

【子育て・学校・子ども達.....】 -2001/5/23(水) -No.75-

存在

当然のことだったが、ゆーたは中学に行くことはなかった。

小学校の卒業から中学の入学は、ゆーたにとって何の意味もなかったのかもしれない。いや、あと何年、何十年たったら、何らかの意味をゆーた自身が見いだすかもしれない。

僕自身も中学校に足を運ぶことはまずない。

ごくたまに家に来てくれる担任の先生が、唯一、中学校の様子をかいま見せてくれるだけだ。

いつまで続くかわからない同じ毎日の繰り返し。「何か」があるとは思いつつも「何か」が見いだせない辛さも、併せ持つ。

.:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'.:\*:.。.:\*:.'° 。.:\*:.:.\*:

それでもゆーたの存在はかけがえのないものだ。

社会や他者との関わりは、なかなかうまくできていかないが、それでもゆーたは、「そこに存在することだけで素晴らしい」のだと思う。

勿論、日々、口げんかしたり、怒鳴ったり、大声を出したりしているが、それでもゆーたは僕たちにとってなくてはならない存在なんだ、と強く思った。

.:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'.:\*:.。.:\*:.'° 。.:\*:.:.\*:

ハンセン病訴訟のニュースが報道されるようになって、HPやテレビを見て改めてその実態に驚いた。そこには、人間としての存在そのものを社会的に、そして、家族・肉親たちからも抹殺された人たちの姿

があった。

改めて、「人の存在する価値」というものを考えさせられた。

ゆーたに限らず、全ての人が「存在することが素晴らしい」、そんなやさしさが、社会全体に培われていくことを強く願う。

---

### ハンセン病

ハンセン病訴訟に対して、国は控訴するみたいだ。

「控訴して和解」.....

どうしてだろう？ なぜ？ HPなどで色々知れば知るほど、ハンセン病患者の人たちが受けてきた苦しみが全然、国には届いていないんだと、痛切に思った。

.....とここまで書いて、メールマガジンを配送しようとしたら、6時のニュースで控訴断念とのことだった。良かった。原告の方達の喜びの顔を見られてほんとに良かった。

たくさんあるHPの中でも、以下のHPなどが僕に参考になりました。

「ハンセン病回復者とふるさとをむすぶ」

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Himawari/8952/>

.....ハンセン病WEBパネル展 がお勧め

「知って！ハンセン病国賠訴訟 -ハンセン病国賠訴訟弁護団-」

<http://www.hansenkokubai.com/>

「高松宮記念ハンセン病資料館」

<http://www.hansen-dis.or.jp/>

.....「事件と人物」 がお勧め

NHK教育のETV2001 でハンセン病の特集があります。

NHK教育 ETV 2001 午後10時00分～10時45分

「ハンセン病患者はなぜ隔離されたか」

2001年5月30日(水) 前編 隔離政策はこうして続けられた

2001年5月31日(木) 後編 語り始めた元患者たち

∴∴∴∴。∴∴∴∴。∴∴∴∴。∴∴∴∴。∴∴∴∴∴∴∴∴

色々な報道の中で、特に耳に残っている言葉が、

「結局、国の政策云々というのもそうですが、周囲の人たちの差別、偏見がこの問題の根元にはあるんです」という言葉だった。

僕自身、ハンセン病という言葉よりも、小さい頃の「らい」という言葉と、それに伴う「怖い病気」という知識だけが未だに心に残っていたことが、その現れだろうと思った。

---

### PTA会長退任

先月の22日のPTA総会で、一年間の会長の任期が終わった。

総会の最後に退任の挨拶があった。

何を話そうかと挨拶の直前まで考えていた。「何を」というよりも「どんなトーンで」と言った方が適切だろう。マイクを持った途端、「ま、最後だから言いたいことを言ってやれ！」と決め、次のようなことを言った。

∴∴∴∴。∴∴∴∴。∴∴∴∴。∴∴∴∴。∴∴∴∴∴∴∴∴

・この一年間、子ども達の命に関わる大きな事故、事件がなかったことが何よりも嬉しかった。



・先生方への注文を二つ

一つは、「言葉に対してもっと神経を使って欲しい」と。

これはバカ丁寧な言葉を使えと言うことではなく、その言葉が子ども達に与える影響をもっと考えて欲しいということ。

この2年間、役員として関わってきて、小学校の先生達はどのように言葉に対して鈍いのか、と思ったことが何度もあった。

考えてみれば、小学生の子ども達は、自分の言葉を持ち得ていない。また、その先生達の与える影響が、芽を出すのは、ずっとずっと後のこと、思春期になってから形を表すことが多い。だからこそ、「鈍く」なってしまうのではないのか？

もう一つは、親は先生達に完璧を求めてはいない。きれい事ではなく、一緒に悩んだり考えたりしていくことを望んでいる。失敗することがあっても、上辺を取り繕うようなことはしないで欲しい、と。

・保護者への注文を二つ

教師は子ども達を「連続」で見るが、親は「断面」で見てしまう。この違いをはっきりと認識すべきだ、と。ともすると、とある「瞬間」を目の当たりにした時、その前後のつながりも何もわからず、その場面だけで判断する。

「先生が大きな声で怒鳴っていた」などと。そして、直接話をするのではなく、うわさ話として話が広がり、尾びれ背びれどころか、胸びれまでついて話が広がっていく。そのこの所を考えて欲しい。

また、今学校が大きく変わろうとしている。その対応に一番大変なのは、現場の先生達。しかし、親は自分の受けてきた教育や小中学校時代を元に、今の学校や子ども達を見ているのではないのか？

今の学校改革は、我々が子どもだった時とは考えもつかないくらいに、変化しようとしている。自分の経験だけでは決して判断できない時代になっている。先生と一緒に、新しい学校を作っていこう、と言う姿勢が何よりも大切になってくる。

.:\*.・'° 。.:\*.・'° ° '・\*:..。.:\*.・'° 。.:\*.:::.\*:

他にもその場の雰囲気、余分なことも言ってしまったようだが、大体、上のようなことをしゃべった。一年間のPTA会長はとっても楽しかった。

他にもない、また多くの人たちと関わりが持てるようになり、自分の視野が広げられたから。

一緒に関わった役員の人たちと、新しい動きを作り出せれたと思ったから。

「OSMさん、中学校でもPTAの役員やってよ！」「また、やるんでしょ？」等と色々な人に言われる。「もう、良いよ。ゆーたの行ってない所の役員なんて、面白くないしね。これからは無理はしないよ」と、笑って答えている。

## 不惑

40にして惑わず...だそうだが、いよいよ僕の混迷は深まっていく。

僕が教壇を去ったのが、ゆーたが小学校の2年生の時。

ゆーたが義務教育が終わる中学卒業の時が一つの区切りになるだろう、と話していた。時のたつのは早いものだ、ゆーたは中学生になってしまった。

ゆーたは着実に成長してきた。しかし、自立にはまだまだ時間がかかるだろうし、これから先も、僕たち親が責任をもってゆーたと関わることなしに、ただ年齢だけでゆーたを判断することは、絶対にできない。

一方、女房も学校で何かある度に「もう、そんなに長く学校には勤められないと思う」と口にする。

今、我が家の経済を一身に担っている女房のこの言葉は、非常に思い意味を持つ。

「人はパンのみに生きるにあらず」と言えども「パンなしでは生きていけない」という現実。親父やお袋の  
老い。そうした将来への漠然とした不安が、僕を襲う。

方や「立って半畳、寝て一畳」の僕らの人生。  
何とかなるサ！ というお気楽な考えもないではない。

すずきおさむよ、どこへいく?????

編集後記

やっぱりメールマガジンは出さずにはいられないものだ、と思いました。伝えたい、一緒に考え  
たいことがたくさんあります。

小泉内閣については、色々と言われていますが、今回のハンセン病訴訟に関して言えば、森内閣  
だったら絶対に控訴したろうな、と思った。

カーナビ -2001/05/26(土) Vol.249-

地図が読めない人ってのはいるモンだ、ということを見つめてわかった。

「おい、この先どっち？」

「えっと、えっとお、みぎ、右！」

どうもおかしいと思い、しばらく行って車を止め、地図を受け取る。

..... (--;)

「普通、車の進行方向に対して、右とか左って言うだろ？」

女房は、地図の向きを変えることなく、進行方向もおかまいなしに、右左を僕に指示するのだ。もっとも  
全く女房が役に立たないというわけではないが、車の運転は時として事故に直結するだけにおっかない。

時折、どうしても聞きたいことがあって聞いても返事がない。

バックミラーを覗くと、気持ちよさげに寝入っている女房.....

僕は一人寂しく車を走らせる。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° '°\*:~.。.:\*:~'° 。.:\*:~:~\*:

キャンプなどでアチコチ出かける時に困ることがもう一つ。それはゆるたのテレビ。まったくこだわりの  
強いヤツで、毎週決まった時間に、決まった番組を見ないではいられない。録画できる範囲でしてくるが、  
出かける前、そして旅行中、さんざん騒いでも、帰ってくればケロっと忘れてる。

そんなゆるたが、カーナビでテレビを見られることを知った。

自分の貯金を出しても良い、とまで言い出した。

もっとも、プーニャを買う時に貯めていた貯金を結構はたいたから、さほど残っているわけではないが、  
それでも「渡りに船」と、一気にカーナビ購入まで持っていった。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° '°\*:~.。.:\*:~'° 。.:\*:~:~\*:

う~ん、面白い！

明日は、山中湖でハーフマラソン。

早速、カーナビが役に立つ。

女房を横に座らせ、一生懸命説明しても、

「あ、良かったね」と一言。



はしゃいだ僕がバカだった……。 (--;)

4月のフルマラソン以来のレースです。  
天気はどうやら雨っばいですが、卒業生が山中湖まで会いに来る、と連絡がありました。なんか遠足前の気分です。 (^へ^ )v

## 2001年6月

地震 -2001/06/01(金) Vol.250-

その時僕は、寝入っていて地震そのものには気がつかなかった。

目が覚めた時には、部屋の電気がつき、僕とゆーたの間に、本棚の文庫本を入れるスライドの棚の部分が倒れていた。本当なら、そこは女房が寝ている場所だった。

夕べ僕が布団に入ったのが、11時半頃。それと入れ替わりに女房が「眠れん！ テレビ見てくる！」と言って布団を抜け出したのだった。

もし、女房が寝ていたら、そのまま女房の上に棚は倒れていたはずだった。

本棚本体につけられていたスライド式の棚は、ネジの部分がゆるくなっていたのだった。全く気がつかなかった。

「これ、地震の時に危ないよね」と、言ってはいたのだったが、細かく見ることはなかった。

:.:.:'° 。 .:.\*:'° ° ' .:.\*:.. .:.\*:'° 。 .:.\*:..:.\*:

喉元過ぎれば、と言われるが阪神淡路大震災の記憶は、確実に僕の中では遠いものになっている。今なお、その時の苦しみを背負い続けている人たちは確かにいるのだが。

一瞬の出来事が、人生を大きく変えるものだ。

もし、昨晚の棚も女房の頭を直撃していたら、と思うとゾッとする。

いつ何時、何が起きるのかわからないんだと、先だっの車をぶつけられた時と同じ感覚が、再びよみがえった。

不安ばかりを大きくして、小さく縮こまった人生を送るのか、それとも全く持って脳天気な人生を送るのか……。

「大胆かつ細心であれ！」

突然、昔言われた言葉を思い出した。

山中湖のハーフマラソン、走ってきました。雨の中のレースでした。  
う～ん、何で走るんだろうなあ？  
今度は7月28, 29日。富士の北麓公園での24時間リレーマラソンです。

## 2001年7月

誕生日 -2001/07/06(金) Vol.251-

また一歳をとった。去年よりも少しは「ないすみどる」になっているのだろうか？

女房は成人式の時、着物を作るなんてもったいないから、そのお金で「青年の船」に乗ってきたそうだ。僕たちの結婚式の時も、式場で用意されているものではなく、自分たちの手作りでお金を浮かせて、本を

つくり引き出物にした。

そういう意味で女房は非常に現実的、淡泊。

僕もある面そういう部分はあるが、それでも人にプレゼントをしたり、プレゼントをもらったりするのは、嫌いじゃない。

我が家ではゆーたやおじいちゃん、おばあちゃんの誕生日の時は、みんなで食事をするが、僕や女房の時は、せいぜいケーキを買ってきて、みんなで食べるくらいなもの。

今日は女房は、「総合学習」で暑い中、山に登りクタクタに疲れてきたらしく、「最低限」のケーキすらなかった。 (;\_;)

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° '.\*:.. .:\*.:'° 。.:\*...\*:

毎年、誕生日には女房からお金をもらって、自分で何か買うことにしている。今年はカーナビを買ったから、何もなし！ ということだったが、それでも少しは期待していた。

がっ！

先だってスピード違反でつかまり、12000円の罰金を払うことになった。

僕の前をおじいちゃんがバイクに乗ってヨタヨタと、そのくせスピードは結構。危ないから、アクセルを踏み込み、加速してバイクを追い越しました。

その時、道の横を見たら、「あれ？」

次の瞬間、前方でお巡りさんが、旗を持って「こっち、こっち」と手招き。

18km オーバー、12000円也 ……。

FF10も、サングラスも、シューズも全て夢と消え去った……

ありゃあ、ちょっと書かないでいると直ぐに日がたってしまってます。

こんなに間隔があいてしまっていたなんて……。

もちっと真面目に書こうかな？ と思いつつも、このメールマガジンに真面目は似合わないな、と。(^^ゞ

## わき腹 -2001/07/09(月) Vol.252-

一頃に比べれば随分と身体が絞れてきたとは言え、お腹の周りにはまだまだ贅肉がたぶついている。最近、ゆーたがそのわき腹を突っついて喜んでいる。

そう言えば、教員をしていた頃も、生徒達がいきなり後ろから、僕のわき腹を突っついて遊んでいた。その遊びが流行った時にはさすがに閉口したが、「いきなり何すんだぁ～！」

「だって、気持ちいいんだモン！」

「お前らぁ、人の身体を触って遊ぶな！ 今度触ったら、オッパイ触るぞ！」

等といったやりとりも、楽しい思い出の一コマだ。

でも、わき腹をツンツンとやれる生徒と、そんなやりとりを遠くから見ているだけの生徒がいたなぁ……。

ゆーたの「わき腹ツンツン攻撃」を受けながらも、悪い気持ちはしない。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*:

「なんか凄く楽しいですねえ」

メンタルクリニックのカウンセラーがそう言った。

今までゆーたにとって、僕は何かあったら怒る怖い存在、というのが強かったと思う。その距離がホンの少しではあっても縮まってきたのかな、と思うと嬉しくなってくる。

最近、ゆーたの言動に、「やさしさ」を感じるようになってきた。

FF10はあきらめて、FF8を二人で始めました。

あーでもない、こーでもないと言いながらも、ついつい僕の方が夢中になってしまう。FF10、やっぱり欲しいなあ～ (^\_^)

プー -2001/07/10(火) Vol.253-

プーニャが7月22日で一歳になる。

我が家に来てからまもなく半年、すっかり2階の一員になった。

当初、僕以上に猫を拒否していた(?)女房も、今では楽しくじゃれ合っている。(^^ゞ そしていつしか呼び方も、「プーニャ」から「プー」に変わってきた。

姿が見えないと、「あれ? プーは?」と誰彼となく気かけ、お気に入りの場所をのぞきにいく。

タンスの上の段ボールの裏、ラックの下の隙間、テレビの裏側.....。

大体昼寝をしていて、そーっとのぞきにいくと、何ともうっとうしそうな目をこちらに向ける。

何度か姿が見えなくなって焦ったこともあった。

大体がクローゼットか、タンスの引き出し。布団を片づけたり、洗濯物をしまう時、さっとその中に入ってくるのだった。プーニャが入ってきたことに気がつかずそのまま閉じこめてしまうのだった。

「プーニャ! プーニャ!」と声をかけると、クローゼットの内側などから、か弱い声で「ニャー.....、ニャー.....」と鳴くのだった。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*:

「猫の時効はその場限り」とよく言われる。悪さをしたときなど、後から怒っても何のことかわからないのだ。その時に、ダメなことはダメ、と言うだけ。そして、何度も何度も.....。

机の上のものをひっくり返したって、猫が悪いのではない。そんな所にモノを置いておく方が悪いのだ。(^^;)

プーニャの姿に、僕たち三人が何度笑い転げたことか。

また、プーニャは絶好の緩衝剤になってくれるのだった。

ちょっときまづくなったりイライラしていても、そんなことは猫の知ったことではない! 相変わらずいたずらはしてくれるは、餌をよこせ、とすり寄ってくるわ.....。

ゆーたが最近見せる何気ないやさしさも、こうした家族の雰囲気も大きいのかもかもしれない、など思うのだった。

.....お腹が一杯になった、ヤツは、また例の「お気に入り」で静かな時を過ごしている.....

何かゆーたへの対処方法をプーニャから教えてもらっているような気がします。  
あははははは！ (^^ゞ

## リンダ -2001/07/11(水) Vol.254-

2匹目の猫の名前でもない。  
山本リンダでもない。

「りんだ、りんだぁ〜」の歌でもない。  
我が家では扇風機を「リンダ」と呼んでいる。

「あ、クレヨンしんちゃんだ！」とピンときたら、相当なモノだろう。(^^ゞ

そう、何巻かわからないが、しんちゃんの単行本で、野原家が扇風機に「リンダ」と名前を付けて呼んでいたのだった。

よほど印象が強烈だったのか、ゆーたは何度も何度もその話を繰り返す。  
こちらがイヤになるほど.....。

そして、いつしか我が家でも、扇風機のことを「リンダ」と呼ぶようになってしまったのだ。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° !~\*:.. .!:\*:~!° 。.:\*:~!~\*:

去年の猛暑の中、エアコンをつけたのは一日だけだった。  
今年になっても、まだ、2回ほどしかつけていない。  
これはゆーたが、去年から真夏でも長袖、長ズボンで通したからだ。

「紫外線の影響でガンになる恐れがある」ということをテレビで見たゆーたは、長袖長ズボンにこだわり続けた。確かに紫外線の危険性は、世界各地で指摘されている。オーストラリアでは、小学校で子ども達に、「長袖、色の濃い服、つばの広い帽子、サングラス」そして「紫外線予防クリーム」を使うように指導している、とのこと。

だからゆーたが言う事はあながちはずれているわけではない。

しかし、そこはゆーただ。  
とにかく「長袖、長ズボン」の「部分」に固執してしまうのだ。  
こっちもインターネットで、紫外線について調べまくり

「皮膚ガンの危険性のある、UVBはガラスを透過しないんだぞ！ だから、家の中では、半袖で十分なんだ！」と。

でも、ゆーたは長袖で通す。

そのくせ「暑いからエアコン入れよう！」とくるから、「電気代がそれこそもったいないだろっ！」と言い放ち、「ゆーたが半袖になって、それでも暑くてたまらない状態だったらエアコンを入れよう！」ということになっている。

:\*:~!° 。.:\*:~!° ° !~\*:.. .!:\*:~!° 。.:\*:~!~\*:

「ゆーたぁっ！ 寝室から『リンダ』持ってきて〜」

女房の声が聞こえる。

今日も、そして明日も我が家では「リンダ」がアチコチと移動する。

その度にゆーたは  
「なんか、パシリで使われてるみたいだなあ……」と言いながらも「リンダ」を連れて回っている。

梅雨明けを思わせるような天気でした。  
いよいよ夏本番ですね。

富士北麓 -2001/07/27(金) Vol.255-

マラソンを始めて1年半。考えてみればよく続いているモンだと思う。  
6月、7月の二ヶ月は、ほぼ 200 km走っている。その割には体重が落ちないのが悲しいが…… (-;-)

「OSMさんは、どうして走り始めたの？」とよく聞かれる。  
「美容と健康のためだヨ」などと答えているが、今までの自分の日記を読み返してみると走り初めの頃の気持ちがよくわかる。ウン、忘れちゃいけないなあ、と思う。

1999年10月16日(土) 「体力づくり…」  
<http://osamu.net/cgi/nikki3/199910160940.html>  
1999年11月22日(月) 「時速11km……」  
<http://osamu.net/cgi/nikki3/199911220951.html>  
1999年12月01日(水) 田沼意次ファミリーマラソン  
<http://osamu.net/cgi/nikki3/199912011231.html>  
1999年12月30日(木) 歩いていれば…… ~ 外を走り始めました(^\_^)  
<http://osamu.net/cgi/nikki3/199912301001.html>  
2000年01月14日(金) エントリー ~ マラソン大会に参加します~  
<http://osamu.net/cgi/nikki3/200001142053.html>

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。.:\*...\*:

自分のためだけに走っていたマラソンから、仲間と一緒に走る楽しみを覚えた。それが明日、明後日の「富士北麓24時間リレーマラソン」参加に繋がった。

一周約2kmのコースを24時間、1チーム(6~12人)でタスキをつなげて走り続けるのだ。その周回数で順位が決まるというレース。

僕達のチームはniftyのランニングフォーラムの仲間8人。

チーム名は「FRUN@つむじ風」

名前は格好いいが、「レースの結果よりも24時間楽しんじゃおう!」というチーム。チームの紹介文は僕が考えた。

「24時間も走るのぉ?」「ちゃう、みんなで走るんだってば!」

「でも24時間でしょぉ?」…不安一杯、でもそれ以上にワクワク気分。ま、みんなで楽しく走ろうよネ!

なんか、遠足、いや修学旅行に行くみたいな気分がする。

今から、色々と買い出しに行かなくちゃ!

富士北麓のHPは  
<http://www.runnet.co.jp/24h/fuji/index.html> です。  
チームNo.158 で検索すると、随時記録が更新されるみたいです。  
夜中、お暇な方はどうぞ~!

## 2001年8月

変！ -2001/08/13(月) Vol.256-

毎年お盆の時期になると女房の兄弟が実家に集まり食事をとる。

女房は兄と妹の三人兄妹の真ん中。

兄のところは、小5、小2、年少の三人。妹にはもうすぐ二歳になる男の子がいる。ゆーたは、その従兄弟たちの中で一番のお兄ちゃんになるわけだ。

しかし、兄の所の長女の年齢になると、随分とゆーたのおかしさがわかってくるようになる。今日もゆーたの突拍子もない言葉に時々、何とも言えない複雑な反応をしていた。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

幼い頃はよかった。ゆーたの言動も「おもしろい、可愛い」という範疇の中に収められていたから。また、子どもたちが小さい頃は、訳もわからずに「従兄弟のゆーた君」でいたから。

年齢的には中学一年生にはなったが、精神的にはなかなか自立もできておらず、人とのコミュニケーションやその場の状況判断能力に欠けるゆーたは、次第に「変」「おかしい」存在に変わりつつある。

しかし、これが世間一般の当たり前の反応だろう、と思う。

その反応にこれから先、ゆーたはもっともっと傷つけられ、ますます自信をなくしていくことだろう。そんなゆーたを僕たちはどこまで守り、なおかつ自立させていくことができるだろうか？ そこから目をそむけてはいけないのだということを、今日、改めて思った。

突然、ノートパソコンの液晶が壊れてしまった！ 修理におそらく10万はかかるだろう、とのこと。ってなわけで、なけなしのお金をはたいて新しいノート、librettoを買ってしまった！  
またもやFF10が遠のいた。折角FF8が終わったのに.....。

おばあちゃん -2001/08/14(月) Vol.257-

最近、おばあちゃんとゆーたとのやりとりが激しさを増してきている。

ゆーたは言う

「おばあちゃんは何にもわかってくれない！ それで都合が悪くなると、『そんなこと言ってない』とか『忘れた』とかすぐに言う」と。

ゆーたはゆーたで端から見れば、しつこいしおかしなことばかり言っているのだが、このゆーたの指摘は外れていない。他でもない、僕自身が中学校の頃からお袋を疎んじ始めたのは、ゆーたと同じだったからだ。

僕は「わかってくれない」お袋を拒絶し、沈黙することで、心の平衡を保っていたが、ゆーたは僕以上におばあちゃんが好きで、好きだからこそ、自分を何とか受け入れてもらおうという思いが強く出るのだった。

そして、ゆーたの言葉はきつくなり、ますますおばあちゃんはゆーたを持て余す。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '・\*:..。.:\*:・'° 。.:\*:...\*::

先だっても久しぶりにお袋と言い争いをした。

きちんと話をしないといけないとは思っていても、僕自身の過去の経験から、「難しいこと言ったってわからん！」という最後のセリフがわかっているだけに、あまり話をしたいと思わないのだった。

昔のことに話が及んだ。



「いつでもお姉ちゃんと比べられてばかりだった」アンタは長男だから、男の子だから、ってそればかりだった」

お袋の返事は分かり切っていた。

「そんなことを言った覚えはない」「アンタのためを思って……」

お袋は言われた側の気持ちがどうであったのか、ということよりも、自分の気持ちがどうなのか、ということが出発点になる。

：\*：\*’° 。 ..\*：\*’° ° ’\*：\*’° ..\*：\*’° 。 ..\*：\*’°\*’°

僕が口にする事とお袋は、ゆーたに対する接し方として考え直すのではなく、自分自身を否定されているととらえて、そこで思考は止まってしまうのだった。

これ以上何を言っても、無駄だと思ってしまう。

でも、ゆーたはおばあちゃんが好きなのだ。だからこそ、わかってくれないイライラをぶつけていることが、おばあちゃんには理解できないのだった。

来年度、女房の転勤と併せて、転居だけでなく今後の人生設計そのものを考え始めている。

明日から、長野県の斑尾高原キャンプ場に出かけます。

2泊3日のキャンプです。ナビがついたので、道路の心配はないけれど、渋滞がどうだろう？ ひとつも後ろで二人は気持ちよさそうに寝入っている。

## ナビちゃん -2001/08/15(水) Vol.258-

沼津から車を走らせること、350km。長野県の斑尾高原にやってきた。

我が家のキャンプは、他の旅行と同じく女房が行きたいところが、その年のキャンプ地になる。僕はひたすら車を走らせる。

毎年、こうした旅行の際に一番頭を悩ませるナビゲーターだが、今年は、お利口さんがすぐ側にいる。

：\*：\*’° 。 ..\*：\*’° ° ’\*：\*’° ..\*：\*’° 。 ..\*：\*’°\*’°

「あ、コンビニで買い物したいわ！」と女房が言い出す。

「周辺施設」から「コンビニ」を指定して、目的地に設定する。

最近はいたるところで耳にする女性の「優しい声」が「およそ700m先を、左折です」と案内してくれる。ここまで詳しく案内してくれるのか、と思うと多少の誤差は勘弁してあげよう、という気持ちになる。何よりも女房のように、文句は言わないし、右と左を間違えることがない。

「おりこうさんだねえ～」

と三人で口を揃えて感心している。

「リング」に引き続き、名前を付けてあげようか？ 等と言っている。

とりあえず「ナビちゃん」と……。

後、数百メートル行けば、新潟県。日本海がもうすぐの所。

休憩を含めて移動時間は6時間。遠くにきたモンだ、と思う。

## カヤック -2001/08/16(木) Vol.259-

とっても不器用で、何をするにも自信のもてないゆーたには、できる限り色々な体験をさせたいと思って

いる。しかし、ちょっと疲れたりすると、イヤになってしまうゆーたをその気にさせるには毎度毎度苦労する。また、その場になっても、何かしら怖い思いをしたりすると、途端に気持ちがくじけてしまう。

一昨年、下田で初めてシーカヤックをやった。

その時、ゆーたも講習を受けたのだが、「小学校高学年でもできる」パドリングやラダーの操作なども、やはり難しいものだった。

僕はとっっても面白く、その後も機会があれば、「カヤックをやろう」と言うのだが、簡単に却下されてきた。もっとも、ゆーたと一緒に楽しめないものを僕と女房の二人で楽しめるはずがない。僕も半分は諦めていた。

：\*：\*！° 。 ..\*：\*！° ° '！\*：\*！.. ..\*：\*！° 。 ..\*：\*！\*：\*

斑尾高原から30分ほどの所の、戸狩高原「もりの家」という所に出かけていった。そこでは色々な体験メニューが用意されており、その中に「池でカヤック」というのがあった。

丁度他には適当な体験メニューがなかったため、僕の希望がかなって、今日は池でのカヤック体験をすることになった。

女房とゆーたが二人乗りのカヤック、僕が一人乗りのカヤック。

ゆーたも一応はパドルを持つが、大きな声で「あっち行け！ こっち行け！」と女房に指示を出していることが多かった。しかし、池には波もなく、また、直ぐ側に岸が見えている安心感もあり、海に比べれば簡単に楽しい2時間を過ごすことができた。

：\*：\*！° 。 ..\*：\*！° ° '！\*：\*！.. ..\*：\*！° 。 ..\*：\*！\*：\*

「8月にもう一度、キャンプに行かない？ この間行ったキャンプ場でカヤック貸してくれる、って言ってたじゃない！」

と女房が言い出した。

ゆーたが楽しそうにしていた、という事が女房の心を動かしたのだった。

斑尾高原スキー場を会場にして、花火大会が開かれています。

キャンプサイトからほんの少し離れたところ。テントから顔を出して、ゆーたと女房は花火を見えます

## 2001年9月

フリーマーケット -2001/09/24(月) Vol.260-

昨日、23日。リサイクル市民の会主催のフリーマーケットに行ってきた。と言っても、今回は、「出店」という形での参加。

なんの変化もない毎日を送っているゆーたにとって、少しでも他者との関わりを持てる場所を、という考えもあった。そしてそこには何かしらゆーたを引きつける「魅力」がなければならなかった。

ゆーたにとってフリーマーケットの魅力は、「お金」だったということは言うまでもない。

何日も前から、「何か出すモノはないのか？」と半強制的に、しかも連日おばあちゃんの所におしかけるのだから、たまったモノではなかっただろう。とにかく、ゆーたは知人から手に入れた遊戯王のカードを、僕はかつて夢中になったミニ四駆を初めとしたプラモデルや、使わなくなった電話機、そして女房は衣類やら日用雑貨を揃えた。

：\*：\*！° 。 ..\*：\*！° ° '！\*：\*！.. ..\*：\*！° 。 ..\*：\*！\*：\*



当日の朝、いつもはダラダラしているゆーたが着替えも、洗面もさっさとすませ、早く行こう、早く行こう！ の連発。女房と二人で、「考えてみれば、遠足や運動会なんかで今までゆーたがこんなにもハイになったことはなかったよね」と。

お店は朝の9時から午後1時まで。

やはり子ども達がゆーたの所にやってくる。最初の内は、モニヨモニヨと「ありがとうね」とかいていたのが、その内、「ありがとうございます」ときちんとしたお礼を言うようになったりして。

人の波がひいてしまうと、直ぐにイヤになっちゃったり、お客さんがきていてもなかなか決められないでいるとせかしてみたり.....。

アッという間に4時間が過ぎていった。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '.:\*:.. .\*:・'° 。.:\*:...\*:

出店料を差し引いた純利益が15000円ほどだった。

三人で山分け、ということでゆーたも5000円を手に入れた。(^^)

「今度はいつフリーマーケットに行く？」とゆーたは次の準備に入ってます。

昨日の臨時収入で、新しいランニングシューズを買っちゃいました！ 今週の日曜日は、芦ノ湖スカイラインでハーフマラソンです。

## P 2 計画 -2001/09/25(火) Vol.261-

我が家にプーニャのお嬢さんを迎え入れよう、という話が持ち上がったのはいつ頃からだろうか？ 我が家は形の上では話し合いで物事が決められてはいるが、実質は女房の首の振る方向で決まる。(--;)

誰が言い出しっぺなのかははっきりしないが、女房は「プーニャの子どもがいいなあ」と。僕は、子どもを産ませたいという気持ちもあるけれど、ゆーたと女房が、それなりの気持ちにならないと大変だと思っていた。

とにかく、プーニャにお嬢さん or お友達を迎え入れよう、となった。

僕とゆーたは「P 2 (ぴーつー) 計画」と名付けた。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '.:\*:.. .\*:・'° 。.:\*:...\*:

ロシアンブルーのHPとして色々参考にしてきたブリーダーのmasakoさんの所で丁度7月3日にオスのニャンコが産まれた。

8月の初めにメールを出し、まずは、仔猫を見せてもらおうと、8月末三人でお宅に伺った。

当たり前だが、猫はじっとしていない。気がつく足下に猫がいたり、今そこにいた猫が、次の瞬間には全く別の場所でゴロゴロしている。(--;)

注意力のまだまだ弱いゆーたが、どこまで気を遣ってあげられるようになるのか気になってしまう。

その場では、結論は出さずに家に帰ってから、再度、三人で話し合った。ゆーたも、プーニャのお嬢さんを迎えよう、ということに非常に乗り気になったようだ。その意向を再度、メールで伝えた。

:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '.:\*:.. .\*:・'° 。.:\*:...\*:

「チビニャンに会いに行こうか？」と9月に入って、ゆーたと二人で再度出かけていった。masakoさんは、

僕のHPなども見てくれていて、ゆーたに対する接し方もとっても優しい。

そんなmasakoさんや猫たちに囲まれて、ゆーたもとっても優しい表情をする……。

帰りの車の中でも、ひとしきりチビニャンコの話で盛り上がった、「P2が来たら……」とか「あかニャンコが産まれたら……」等と言った具合に。そして「まずは、名前だね」と……。

ブリーダーさんのmasakoさんのHPはここです。ここに今度譲ってもらうチビニャンコがいます。  
<http://mirabilis.tripod.co.jp/>  
皮膚科に行ったら「主婦湿疹ですね」と言われた。(；\_；)

## ニコレット -2001/09/27(火) Vol.262-

「禁煙してても吸いたいよぉ！」というテレビコマーシャルが、最近流れている。禁煙補助剤「ニコレット」を要するにニコチン入りガムのこと。

今までは病院で診察を受け(保険適用外)処方してもらわなければ手に入れることができなかった。それが今月の9日から一般の薬局でも手にはいるようになったのだった。

このニコレット、5年以上前、一度試してみたことがあった。

確実にニコレットの個数も減っていき、後一息という頃、ニコレットがなくなってしまった。その頃、とても忙しく、つつい病院に行くのが後回しになり、結局、ニコレットを使っただけの減煙、禁煙は挫折した。

：\*：\*’° 。：\*：\*’° ° ’\*：\*’。：\*：\*’° 。：\*：\*’\*’\*’

昨日、小学校の時の担任の先生が遊びに来た。

夏休み一緒に釣りに行って以来のことだったから、キャンプの話やフリーマーケットの話などをした後、ゆーたが

「もう一つ、ビックニュースがある！」と。

「?????」

「なんと、パパがタバコをやめた！」(^.^)

う～ん、それだけ強烈なことなのかなあ？ ま、単に刺激が少ない毎日の中では、それなりに大きな出来事なのかもしれないなあ。

：\*：\*’° 。：\*：\*’° ° ’\*：\*’。：\*：\*’° 。：\*：\*’\*’\*’

最近では、ニコレットを噛むことなく、完全にニコチンを断っている。それほどタバコを吸いたいとは思わなくなってきた。

しかし、27年間慣れ親しんできた、煙をぷわぁ～っとやるあの瞬間を手放してしまったことが、何とも言えずに寂しい……。

明々後日、30日は芦ノ湖スカイラインでのハーフマラソン。  
思い出がいっぱい詰まっている道路を走ります。

## ちゅらさん -2001/09/29(土) Vol.263-

朝の連続テレビ小説「ちゅらさん」の最終回。

エリーが言う。「生きているって楽しいサ！」と。

先だって放映された「憧れの人」というテレビ番組の中のセリフ。  
「目立たず、ゆっくりでいい。けれども精一杯生きたい」と。

毎日、毎日同じような生活を繰り返している、ゆーたと僕。  
楽しいのかなぁ……とふと尝试してみたり。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° '.:\*:.. .\*:.'° 。.:\*:...\*:

アメリカのテロでたくさんの命が奪われた。  
当たり前にあった「明日」が、突然失われた。  
いつも横にいた人が忽然と姿を消してしまった……。

テロがあろうがなかろうが、その前から命の危機に瀕している、アフガニスタンの人たち、子ども達。  
それだけではない。世界各地の難民や飢餓に苦しむ人たち……。

テロへの報復として、また多くの人たちの命が危険にさらされようとしている。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° '.:\*:.. .\*:.'° 。.:\*:...\*:

「生きる」って何だろう？ 「生きている実感」って何だろう？  
ついついそんなことを考えてしまった……。

「国境なき医師団・日本」のHP、ご存じのない方は是非、一度ごらんになってはいかがでしょう  
か？

<http://www.japan.msf.org/> です。

## 2001年11月

和歌山 -2001/11/13(火) Vol.264-

朝の8時10分過ぎに浜松を出て、2時過ぎ和歌山県の御坊市にきた。

お袋の姉が住んでおり、小学校の頃、毎年のように僕と姉貴とお袋で遊びにやってきた。最後に和歌山に遊びに来たのは中学生の時だったから、実に30年ぶりのことだった。

「和歌山に住んでいるおば」ということで「和歌おばちゃん」と僕たちは呼んでいた。

そんな「和歌おばちゃん」が随分とぼけてきて、この年末には施設に入ることになったという。その話を聞いて、いてもたってもいられず、和歌山に行きたくなった。ゆーたはゆーたで、お袋がゆーたによくする僕の小さな頃の話の中に、よく出てくる「和歌おばちゃん」の話を耳にしていたゆーたも、是非一度会ってみたい、と言い出した。

結局、僕、ゆーた、お袋、隣に住む伯母（お袋の姉）の一泊二日の旅行になったのだった。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° '.:\*:.. .\*:.'° 。.:\*:...\*:

和歌山の海で僕は初めて人が死んだ姿を見た。海でおぼれた若い女の人だった。海岸にあがった死体の青白さと、彼女にすがりついて泣き叫ぶ家族の姿は怖くてたまらなかった。

磯遊びもここで覚えた。水中メガネの向こうに広がる砂浜とは全く異なる世界がそこにあった。

初めてカブトムシをつかまえた。

蝉の脱皮を夜中、ずっと見ていた。  
アワビやサザエをはじめとした、取れたての魚介類も格別なおいしさだった。  
お風呂は五右衛門風呂だった。  
.....僕の小中学校の夏休みと言えば、この和歌山だった。

:.:.:'° 。 .:.:'° ° ' .:.:.. .:.:'° 。 .:.:...'°:

かつての海水浴場は埋め立てられ、漁船がたくさんつなげられていた。  
きれいな磯には火力発電所がつくられ、辺りの景色を一変させていた。  
ゆーたと二人で散歩しながら、昔の思い出を話した。  
当時の僕と同じ年齢になったゆーたが、僕の横に立っていた。  
何とも言えない不思議な感覚に襲われた。

:.:.:'° 。 .:.:'° ° ' .:.:.. .:.:'° 。 .:.:...'°:

伯母には子どもがいない。旦那さんを亡くしてから、長い間一人暮らしを続けてきた。  
ゆーたのトンチンカンな話や行動に、伯母もお袋達も笑った。  
この家の中に、こんなに笑い声が響くのは、久しくなかったのではなかろうか？ そう思った。

:.:.:'° 。 .:.:'° ° ' .:.:.. .:.:'° 。 .:.:...'°:

伯母の家から帰る時、お袋と伯母達がいきなり涙を流した。  
「もう、会えんかもしれないでね...」と。  
「ありがとう」を何度も何度も繰り返す伯母。  
僕とゆーたは、見てはいけないものを見てしまったような感覚に襲われた。

昨夜は、自宅には女房が一人だけ。  
さぞかしのんびりとした夜を過ごしたことだろう.....。

## 2001年12月

検定試験 -2001/12/02(日) Vol.265-

実にウン十年振りのことだった。  
大学卒業以来、定期テストや入学試験の監督は20年近くやってきたが、自分が受ける側になったのは。

NTTコミュニケーションが今年から始めた「.comMaster(ドットコムマスター)」という認定試験を静岡で受けてきた。

パソコンに関する知識、インターネットアプリケーションの設定や使いこなしに関する知識、インターネットの仕組みとサービスプロバイダー、歴史・用語・将来に関する知識、その他インターネット利用に関する一般的知識等々.....。

今年5月に行われた検定では、全国で2万人以上受験して、7千人が合格、合格率32.4%というモノ。試験はマークシート方式で前半1時間(40問)、後半1時間半(60問)、計2時間半、目一杯頭を使ってきた。

僕自身、選択肢の問題を作る時に一番苦慮したのは、いかに引っかかりやすい所を入れられるかだった。こちらの術中に見事にはまってくれと、思わずニヤリとしたモノだ。だから、逆にせっかちな僕には、選択肢問題というのは結構はまりやすいのだった。

.....

2時間半もの長時間(笑)集中して頭を使うなんて事は久しくなかったからか、終わった後、頭がボーっとしていた。

浜松駅に迎えに来てくれた、女房とゆーたに

「いやあ、疲れたわあ〜」と言うと

「そりゃ、パパはいつもトランプゲームやドラクエやってて、直ぐにゴロンってしてるんだモン！」とゆーたに言われた。確かに凶星だ。(^^;)

:\*:.'° 。.:\*:.'° °'.\*:.. .\*:.'° 。.:\*...\*:

別に資格をとって次のステップに、というつもりではなく、自分の知識や経験がどの程度のモノなのかを知りたかったというのがある。

しかし勉強を始めて直ぐにイヤになった。

とにかく覚える事が多いし、しかも似たような横文字ばかり！

テキストを開いてもすぐに、ドラクエに走ってしまう毎が続いた。

せめて夕べは、等と思ったが、やはり試験前の睡眠を重視した。(笑)

「ま、何とかなるか」と思いつつも、試験が始まる前のドキドキ感は、何とも言えず新鮮だった。遠い昔に忘れてしまった感覚だった。

試験の結果は17日にならないとわからない。まあそこそこできたとは思っている(思いたい?)が、合格基準は明確になっていないから、あまり大きな事は言えない。言わない。

もし受かっていたとしたら、再来週あたりきつとメールマガジンを発行しているだろう.....。(^^)

NTTコミュニケーションズのインターネット検定については、

<http://biz.ocn.ne.jp/master/> です

左足のふくらはぎを痛めて、2ヶ月近く走れない状態が続いている。

体重がドンドン増えている。マジでやばい! (--;)

## 【子育て・学校・子ども達.....】 -2001/12/03(月) -No.78-

### 中学校 ~遠い存在~

ゆーたが中学生になったと言っても、僕たちは制服も体操服も買わなかった。

ゆーたは一度も中学校の門をくぐっていない。

僕も学校に行ったのは、入学式と一学期に二度ほど。

学校との関わりは、一学期は月に一度くらいは、担任か学年主任の先生が家に来たが、7月以来、一度も来ないし、連絡も全くない。

だからといって学校の体制や、対応の仕方に文句をつけるつもりもなく、特に思うことはない。「まあ、こんなモンなんだろうな」と。

確かなことは、僕やゆーたにとって、小学校を卒業した途端、「学校」がとっても遠い存在になってしまった、ということだ。「中学校」というものが、まるっきり見えない。

もっとも、僕の方が見ようとしていない、ということもあるだろうが.....。

学校がどんな状況なのかは、時々うわさ話で耳にしたり、小学校のPTA役員と一緒にやった人たちから、話を聞く程度。

う～ん、全然見えないなあ……。  
学校は何をしようとしているんだろう……？

---

最愛の妻 ～友人からのメール～

---

つい先日、大学時代の友人から突然メールが届いた。

：\*：\*！° 。 .：\*：\*！° ° '！\*：\*.. .：\*：\*！° 。 .：\*：\*...\*：

ごぶさた。  
最愛の妻が肺癌で10月25日たびたちました。  
でも、元気です。  
妻の子供に残した手紙送ります。  
では、またちょっと幸せな時に会おう。

：\*：\*！° 。 .：\*：\*！° ° '！\*：\*.. .：\*：\*！° 。 .：\*：\*...\*：

メールには、彼の奥さんが子ども達に書き残した手紙や日記などがPDFファイルで添付されていた。切なくてたまらなくなった。

彼は一生懸命奥さんに言っていたようだ。

「人生は長ければ良いってモンじゃない！」と。

それでも奥さんの遺した手紙には、そこここに「突然消えていく悲しみ」があふれていた。

……考えられないこと、考えたくないことだが、突然、女房がこの世を去っていくことになったら、突然ゆーたの存在が消えてしまったら……。そして、僕が突然命を落としてしまったら……。

そんなことをずうっと考えていた。

---

おばあちゃん ～アンタのためを思って～

---

7月の初めの頃から、ゆーたがおばあちゃんに、何かにつけて突っかかっていくようになった。時としてはおばあちゃんの胸ぐらをつかまえたり、大きな声を出したり……。おばあちゃんはほとんど手を焼き、ゆーたが「怖い」と思うようになった。

しかし、そうなるにはゆーたなりの理由があるのだ、と僕は思う。

色々な面で遅れが見られるゆーたを、おばあちゃんとは、「このままでは世間に通用しない」という所から出発する。ゆーたの「今」から出発しないのだ。確かに、ゆーたにはできないことがたくさんある。それらをおばあちゃんは、「しつけ」の問題、「心のありよう」の問題とするのだ。

違うのだ。ゆーたの場合は、障害からくる、理解力や想像力や状況把握の能力が欠落しているところから来るのだ。しかしおばあちゃんはゆーたの「障害」を理解できていないのだ。

おばあちゃんの言葉には、重みがない。

トイレから出て手を洗わないことも、財布からお金を取り出すことも、靴を揃えないことも、皆同じ口調なのだ。そしてしまいには、話がドンドン大きくなっていく。

さらっと言い流せばいいことをいつまでもネチネチ言い続ける。

そして話が大きくなっていく。

「ゆーたに良い子になって欲しいから…」

ゆーたは思う。

それじゃあ今の自分はどうしようもない、ダメな子なんだ、と。

ますますゆーたは落ち込んでいき、おばあちゃんに反発していく……。



話が大きくなって、ゆーたの感情が押さえられなくなった時になって、「パパ、ちょっと来て！」と僕を呼ぶ。

その時には、ゆーたは手がつけられないほど、感情を高ぶらせている。  
そしておばあちゃんは、一生懸命にゆーたの「悪いこと」を僕に告げる。

「もういいから、ゆーた二階に行こう」

そう言って僕はゆーたを二階に連れて行くことが何度も何度もあった。

ゆーたはおばあちゃんのことを好きなのだ。  
その好きなおばあちゃんが、自分のことを「悪い子」と見ている。  
そこに、一番の不安要因があるというのに……。

おばあちゃん自身が変わらない限りは、どうしようもない所にきている。

#### 編集後記

久しぶりのメールマガジンです。学校が遠くなってしまったことと、おばあちゃんとゆーたとの関係で、スッキリしません。思うこと、考えることはたくさんあるのに、僕の「書く力」をはるかに超えてしまっています。

廊下 -2001/12/04(火) Vol.266-

今日は子ども病院で脳波の検査の日だった。

受付後の計測でゆーたの身長は161cmになっていた。

既におじいちゃん、おばあちゃんを追い越して、もうじき女房に並ぼうとしている。大きくなってきたものだと思う。

ゆーたが検査室に入って廊下で待っていると、小さな赤ちゃんを連れた、おかあさんと、おばあちゃんが検査にやってきた。

「一体、どこが悪いんだろう？」

そんな思いにさせる元気な赤ちゃんだった。

ゆーたと子ども病院に通うようになってから、もう、10年以上の歳月が経つんだ、と赤ちゃんを見ながらしみじみと思った。

:.:.'° 。.:\*:.:.'° ° '.:\*:.:.'° .:~\*:.:.'° 。.:\*:.:~\*:.:~\*:.:~\*:

脳波の検査には、40分前後の時間がかかる。その間、じっとしてられない小さな子どもは、薬で眠らせる。ところがこの薬は、目が覚めた後も、足下がふらついてしまう。ただでさえ、バランス感覚の悪いゆーたが薬を飲んだ後は、見ていてとてもおっかなかった。

だから、僕も女房も、できる限り薬を飲まないですむように、静岡までの道中、ゆーたを無理矢理起こして連れてきたものだった。

薬を飲んでもなかなか眠らないゆーたを車に乗せ、病院の周りを走ったことも何度もあった。

隣の赤ちゃんも、薬を飲ませた後も、なかなか寝付かず、おばあさんとおかあさんが代わる代わる、おんぶしたり抱っこしたりしていた。赤ちゃんは、眠くなってきて、ますますぐずったり、泣き出したりするが、かえって興奮してしまっているようだった。

2回目の薬を飲ませる時間が.....、といったやりとりを看護婦さんとしている時、ゆーたの検査が終わった。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

今までも何度も何度も廊下で待ってきた.....。

生まれて二日目、手術室の前の廊下。

点滴がうまくささらずに、何度も針を刺され、泣き叫ぶゆーたの声を聞いていた病室の廊下。

二人目の子どもが生まれた時。医大の付属病院。火葬場。

.....。

廊下は、ただただ、待ち続ける場所だったなあ、と思った。

「廊下から、赤ちゃんの音がすんごく響いて、うるさくて仕方なかった！」

「何言ってるんだ！ お前だって小さい頃はそうだったんだ！」

コードをつけるために塗った、頭のゼリーをきれいに落とすために、ゆーたの頭を洗ってやりながら、そんなやりとりをして、病院を後にした。

検定試験、自己採点では 85/100 でした。解答速報をダウンロードして、確認する時、とってもドキドキしました。いよいよ受験シーズンの到来なんですね。

## ミュウ -2001/12/05(水) Vol.267-

もう一ヶ月以上前になってしまったが、10月21日、コードネーム「P2計画」に則り、我が家にプーニャのお嬢さん候補がやってきた。

名前をゆーたとあれこれ考えたが、結局「ミュウ」に落ち着いた。

さて、そのミュウがやってきた時は、僕たち親子は一種の緊張感をもって二人の行動を見ていた。猫同士の相性が悪いと、時として、ものすごい喧嘩になることもある、ということを知っていたからだった。

ブリーダーのmasakoさんと色々話をし、三匹の内、一番、おとなしい仔猫を迎え入れた。

昨日まで、2階の全てが自分のテリトリーだったプーニャにしてみれば、この得体の知れない「侵略者」をなかなか容認できなかったようで、フーッ！ フーッ！ と今まで僕たちが聞いたこともない声で、ミュウを威嚇するのだった。そして、プーニャがミュウを追いかけて、噛みついたりしたりする。ミュウは、「ミャー」という声を出して逃げていく。

二人の一挙手一投足にハラハラドキドキの日々が続いた。

しかし、1ヶ月もすると、プーニャもミュウもそれぞれの存在を認めてきたのだろうか？ 仲良し(?)になってきたようだ。

毎日のように、二人で所狭しと大運動会をする。

だだだだだだだだだあ-----っ！ ミュウが走る

だだだだだだだだだあ-----っ！ プーニャが追う

時々「ガンッ」などと大きな音がする。

どちらかがイスか机に頭をぶつける音だ。

：\*：\*！° 。：\*：\*！° ° '！\*：\*..。：\*：\*！° 。：\*：\*...\*：

ミュウはようやく五ヶ月の仔猫。遊び盛り、好奇心絶好調！ 何にでも興味を示す。そして、非常に人なつっこい。キッチンテーブルの上に乗ったりした時、こちらは「コラ！」と怒ったつもりでも、ミュウは遊んでくれると思うのだろうか？ ゴロンとお腹を見せて、喉をクークー鳴らし始めるのだった。



プーニャはペットショップの狭いゲージの中に、ずっと閉じこめられてきたんだよな、と三人で話をする。それに比べて、ミュウは、生まれた時から大切に大切に masako さんに育てられ、親兄弟にもまれてきているんだなあ。

やっぱり、家族の愛情は大切なのだ！ などと力んでみたりする。(笑)

つい先ほど、ホットカーペットに僕が横になっていると、プーニャとミュウがそばに来て、寝ころんでいた。プーニャがミュウの毛をなめてあげたりして……。そんな姿を見ているだけで心が和らぐ。

さてさて、来年、二人の間に愛は芽生えるのだろうか……？

H P に密かに写真をアップしてあります。こちらです。  
<http://www.osamu.net/cgi-bin/gallery/gallery.cgi>

スゴイ！ -2001/12/06(木) Vol.268-

今日もゆーたは怒りながらボンバーマンをやっていた。

ハイスコアを塗り替えて、それより上を目指しているのだが、そんなに簡単にハイスコアを更新できる者ではない。だから、ゆーたは怒れてきてしまう。

「もぉ～」から始まって、次第にイライラし始めて、今にも感情を爆発させる寸前になる。ゲームに向かって文句を言っても仕方がないのだが、その気持ちもわからないではない。うまくいかない時は、ホント頭に来るモンだ。

もう少し気持ちのコントロールができるようになれば、感情の逃がし方も覚えてくるだろうし、他の事をやって気分転換、という手もあるだろう。

しかし、ゆーたはその二つとも、まだ持ち合わせていない。

「ゲームに向かって怒ったってしゃーないでしょうがぁ～」とか

「怒らない、怒らない！ 簡単に行かないレベルなんだから！」

とかできるだけ優しく言ってみても、なかなか……。

ブツブツ言っているのが、延々と続くと、最初は聞き流していても、段々とうるさくてたまらなくなる。そしてついつい言葉がきつくなる。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. :\*:.'° 。.:\*:..\*:

「ちょっとパパにやらせてみてよ！」

とゆーたがやっているゲームをやってみた。

ポヨ～ン、ポヨ～ンと斜めにジャンプする風船を打ち落とすのだが、風船は4つに分裂していき、しかも、数も段々と増えてくる。八夕で見ているよりも、ずっとずっと難しい。

ゆーたは15面までクリアするのだが、僕は1面すら容易にクリアできない。

「いやぁ、難しいわぁ、これ！ もうやめ！」

すぐに僕はあきらめて、ゆーたにコントローラーを渡した。

横で見ながら、改めて、ゆーたのテクニックのすごさに驚いた。

…そりゃ、そうだろ！ 学校に行かずにこればかりやってれば！ 等と突っ込む気持ちなど、これっぽっちもなく、心底「すごいなあ」と思った。

「いやぁ、ゆーた、すごいなあ！ お前！」

「おっ、うまい！」「今の、すごかった！」「お前は天才だ！」「あっ、惜しい～！」

.....とにかく、「スゴイ、スゴイ」を連発していた。

その内、ゆーたの様子が変わってきた。うまくいかなくても、怒らなくなってきたのだった。

.:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '.:\*:.. .:\*.・'° 。.:\*:...\*::

「怒るよりもほめる」なんてことは、そこらじゅうで聞くことだし、僕自身も口にしてきた。でも、今日のゆーたの変化を見ながら、そうだったんだよなあ、と思った。

「ほめる」という行為が先にあるのではなく、相手を心からスゴイと認める気持ちが大事なんだと。そしてその気持ちが、結果として相手には「ほめられている」「認められている」という気持ちになるんだということ。

僕自身、いつの間にか「手段」として「ほめる」といことを意識していたんだなと。そして「ほめる」という言葉の中に潜む「傲慢さ」が見えてきた。

口先の優しい言葉よりも、荒削りの言葉でもいいのだ。

スゴイものはスゴイ、と素直に認められたことが、嬉しかった。

ゆーたのおかげで、大切なことを気が付かせてもらえた.....。

「パパは、自分ができないくせに、横から偉そうに、『あぁしたらいい』とか『こうしたらいい』って言うだにっ！」

家に帰ってきた女房にゆーたは得意げに言った。

プーニャとミュウは、延々とプロレスをやっています。時々、キーボードの上を走り抜けていきます。どうやら野菜のカゴをひっくり返した模様...

役立たず -2001/12/07(金) Vol.269-

ゆーたの話じゃない。プーとミュウの話。

起きたい時に起きて、寝たくなったら寝る。

食べたい時に食べ、走り回りたくなったら人のお腹の上だろうが、キーボードの上だろうが、お構いなしに駆け回る。そしてまた、寝る。

お腹がすいたり、甘えたくなったりした時には、人にすり寄ってきて、後は「何サ、アンタは？」みたいな顔をする。

いやあ、ホントに気楽な毎日なんだなあ、と。

お前とあんまり変わらないじゃないか！ と誰かに言われそうだが、そこはひとまず横に置いて、っと。猫という動物は、まこと「役に立たない動物」なのかもしれない。

もっとも、ネズミを捕まえる等と言うことはするみたいだが、我が家には、幸いなことに(笑)、ネズミはいないし、また捕まえてきても、かえって困ってしまうかもしれない。

何かの本で読んだが「猫は何も役に立たないところがいいんです」と。

思わずうなずいてしまった。

「盲導猫」はいないし、「災害救助猫」もない。まして雪山などの遭難に猫が活躍する姿なぞ、逆立ちしてもできやしない。

.:\*:・'° 。.:\*:・'° ° '.:\*:.. .:\*.・'° 。.:\*:...\*::

人にとって、誰かに頼りにされる、役に立っている、という実感はとっても大事なことだと思う。その辺

りの実感はゆーたはほとんど得ずに今まで来たんだと思う。「足手まとい」とか「邪魔だ」と言われることはあっても。

そりゃあ、人の役に立つことは素晴らしいし、頼りにされることも素敵なことだろう。でも、役に立つとか立たないとか言う前に、そこに存在するだけで素晴らしいことなんだ、とプーニャとミュウを見ていて思う。

そしてゆーたに対しても。

僕にとってゆーたは、そこにいるだけで、素晴らしい存在なのだ、と。

無論、腹が立ったりすることは、しょっちゅうあるけれど..... (^^)

左ふくらはぎの故障で、一ヶ月半近くまともに走れなかった。

今日、今月16日の袋井のフルマラソンのナンバーカードが届いた。

勿論、断念。ま、しょうがないか。体重、落とさなくちゃ！（爆）

神戸 -2001/12/09(土) Vol.270-

昨日、用事で大阪まで来たついでに、神戸の友人宅まで足を伸ばした。彼はパソコン通信の仲間です。コンピュータのプログラマ、ソフトウェアの開発から、インターネットを使ってシステムを構築している。少し前会社を設立して「社長」になった。また、僕の個人サポートセンターでもある（笑）。

彼だけではないが、自分の技術、能力だけで生活を支えている人たちは、すごいと思う。「あの人だからできる」というものがある人たちだ。今回、彼の所に寄りたかったのもこれから先、インターネットやパソコンを使って、自分に何ができるのか、そのヒントを得たかったからだ。

「パソコンにしろ、i-modeにしろ、何と何をつなぐか、ということなんです。会社とお客だったり、社員同士であつたり、会社と関連企業であつたり.....」と言った言葉になるほど、と思った。インターネットの便利さや、危険性は僕も大いに実感しているが、そもそも僕はインターネットを使って、「何を結びつけたい」と思っているのだろうか？ とドキッとした。僕が家にいながらにして、経済的に自立していったり、生計をたてていくなつていうことよりも、もっと自分に与えられた時間をもっと有効に使って行く方法はないものだろうか？ そんなことを思った。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° '.:\*:.. .:\*.:'° 。.:\*...\*:

不景気の中、リストラや単身赴任をしている人たち。長年、農業や漁業を営んできたが、明日の生活さえもどうなるかわからない状況におかれている人たち。様々なしがらみの中で、自分を押し殺しながら生きている人たちはたくさんいる。それに比べて僕はどうか？ 「さて、なにしよう？ 時間はあるけれど.....」なんて中学生や高校生のようなことを言われてられる僕は、なんと恵まれた存在だろうか、そう思う。

じゃ、明日から、一分一秒を無駄にしない人生を送り始めることは、決してないだろうし、まだまだ、「うーん、何ができるんだろう？」とブツブツ言っているだろう。

でも、自分にとって、家族にとって、そして僕につながる人たちは、はては一生懸命生きようとしている人たちにとって、少しでもプラスになる生き方をしたいと強く願う。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° '.:\*:.. .:\*.:'° 。.:\*...\*:

今日は、大阪の日本橋まで行って、パソコンのパーツをアレコレ買ってきた。

やはり都会はすごい！ 人の多さにはまいるが、見ている端から欲しくなってくる。

小さい頃、お正月におもちゃ屋に連れて行ってもらった時みたいにウキウキしてしまった。光学式コード

レスマウス、メモリ、ビデオボード、ハードディスク、リムーバブルケース。帰りの新幹線の中、僕の財布の中には、292円しか残っていなかった。

悪いことをしているわけではないが、これまた何かしらドキドキしてしまった！

(帰りの新幹線にて)

彼の家には、二人の男の子がいる。一緒にドラゴンクエストをやったり。  
とっても元気な子どもたち。素敵な奥さん。  
ハッピーな家族にお世話になって、僕もとっても優しい気持ちになれた。

生徒手帳 -2001/12/12(水) Vol.271-

「大人一枚と中学生一枚お願いします。」

アトランティスの映画を観に行ってきた。すると受付の女性が「身分証明書はありますか？ 学生さん同士で来られても、身分証明書の提示がないときは、大人料金をいただいております」

え？ そんなこと初めて言われたぞ。でも、考えてみれば当たり前か。

「この子ですが」

「今回は、家族の方と一緒に言うことで中学生料金で結構ですが、次回からはご持参ください。」だって！

う～む、困った！ 考えてみれば、ゆーたは生徒手帳をもらっていないぞ！ 生徒手帳くらいは、学割のことも必要なんだな！

二学期の終わりに個別面談があるという紙が届いた。

別に話すことないから行かなくてもいいかな、と思ったが、とりあえず生徒手帳をください、とだけは連絡しておこうか。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

ウォルトディズニー生誕100周年記念の「アトランティス」。それなりに期待して出かけていったが、イマイチだった。映画に行くと必ず「パンフレットを買ってよ！」というゆーたも今回は、「まっ、いいや！」と。

映画の中で主人公が、あえて手強い敵に突っ込んでいく時、「利口な生き方じゃないけれど、正直な生き方だ」と言った。

フム、なるほど。

なかなか言うじゃない！

結局、この映画の中で、印象に残っているのはこの言葉くらいかなあ？

勿論人による好みの問題だし、その時の心の有り様にもよるだろう。

しばらくしてから、ハタと思った。

「利口で正直な生き方がいいんだよな！」って。

風邪をひいてしまったんだろうか？ 頭が重いぞ！  
この間、パソコンをいじくり回して、弄ばれてるからなあ。

物言い -2001/12/13(木) Vol.272-

メンタルクリニックへ行く時間が迫ってきたので、下にゆーたを呼びに行った。ゆーたはおじいちゃんの

肩もみを30円で請け負っていた。

「おお、しっかりやってるのかぁ？」等と僕。

「やってるよぉ」とゆーた。ま、大体の見当はつくが.....。

その時おばあちゃんが、

「アンタ18日、出かけたいけれどいいかなあ？」と。

「ああ、別にいいよ」

その時、ゆーたはいつものように言葉をやや強くして、

「どこに行く!？」と。

「ゆーたも一緒に連れて行ってやりたいけれど、遠いからダメ」

という言葉が返ってきた。

.....なんで、そんな言い方するんだろ？ そう思った次、ゆーたは、

「どうしてダメなんだよっ!」

とおばあちゃんにかみついていった。

「だって、遠いからゆーたには無理だから!」

「無理じゃない! 大丈夫だってば!」

僕も思わず口をはさんだ。

「どうしてそんな期待を持たせるような言い方するの? 近ければいいの?」と。

おばあちゃんは、その後はゆーたの語気の強さに押されて、いつものパターンになっていった。ゆーたは激しくおばあちゃんを責め立て、おばあちゃんは「そんなことはない」とこれまた応戦する。

もう知らんわ! と出かける支度もあり、僕は二階に戻っていった。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。.:\*:..\*:

おばあちゃんには、何度も何度も言っている。

「ゆーたに期待を持たせるような言い方をしちゃダメ。出かけるにしても、いきなり言うんじゃないで、前もって伝えておかないとダメだよ。

嘘をつくなら、徹底的に嘘をつかないといけない。中途半端なその場しのぎ的なごまかしは、絶対にわかるんだから!」

おばあちゃんは「今度連れて行ってやる」とその場を、何とかやり過ごすためにそういう言い方をする。「おばあちゃんは、今度、今度って、いつもそうやって逃げる!」

ゆーたは恐れているんだろう。

おばあちゃんに、自分のことを「どうしようもない子だ」と思われることが。

確かにゆーたの行動は、周りをハラハラさせるし、恥ずかしくなることも多い。その点は、少しずつ覚えていくところなのだ。それでも、ゆーたは着実に成長してきている。ゆっくりゆっくりした歩みであっても。

おじいちゃんとおばあちゃんは違う。

「中学に入ってから、ますますどうしようもなくなってきた。」

夏前に僕にそう言った。

その頃、僕はゆーたが最近、変わってきた、と実感した頃だったので、そのギャップに驚き、ショックを受けた。

:\*:.'° 。.:\*:.'° ° .'\*:.. .\*:.'° 。.:\*:..\*:

ゆーたが感情を爆発させると、大きな声を出し全く自制がきかなくなる。

でも、そのきっかけはゆーたにあるのではなく、おばあちゃんやおじいちゃんのささいな「物言い」によるのが大きい。ところが当の本人たちは「ゆーたのため」ということだから、どれだけゆーたを傷つけて



いるか、気がついていない。

何度も何度も別居することを考えたが、今、それをやってしまうとゆーたは「おばあちゃんに嫌われているから、引っ越した」とか「自分は見放された」と思ってしまっただろう。そのところで踏みとどまっている。

ホント疲れるわ。

今朝も風邪で寝ていた僕の所に、わざわざ体温計を持ってきてくれたりして、ああ、人のことを考えられるようになってきたなあ、と嬉しく思っただけに、力が抜けてしまった。

あっ、風邪もひどくなってきた。

「思いっきりテレビ」のことや、お昼ご飯のこと、最近のゆーたの成長……  
そういったことを出かける前まで書いてたんです。実は。  
僕が、おじいちゃん、おばあちゃんともっと話さないといけないんですが、なかなか……。

## とりとめもなく -2001/12/31(土) Vol.273-

「一年前、みんなで除夜の鐘をつきに行ったのが、昨日のことみたいだ」とゆーたが言った。

高校の頃から、一人ノートに向かって、とりとめもないことを書き綴るのが、僕の大晦日だった。いつしかノートとペンが、ディスプレイとキーボードに変わっていたが、12月31日の静かに過ごす時間は、僕にとってこの上なく大切なものだった。

この一年、自分はどんな風になんて変わったのだろうか？ 一年前の自分よりも今の自分の方が、少しは好きになれるだろうか……？

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° ' .:\*:~. .:\*:~'° 。.:\*:~'~\*:

ゆーたの卒業と共に、PTAの会長を退き、時間をもてあますことが随分と多くなったものだ。会う人会う人に「いやあ、今年は暇で……」と言っていたが、その言葉以上に、僕は時間を持てあましていた。

そう言えば、3月にはゆーたが手術をしたんだ。

2週間近く、毎日浜松と静岡を往復したんだ。今年のことだった？ なんて思ってしまう。

7月頃から、ゆーたと二人で昼飯を食べるようになった。

おばあちゃんとゆーたが、何かにつけてぶつかり、それまで頼んでいたお昼を、僕が作るようになった。「作る」と言っても余り物を暖め直したり、スクランブルエッグを作る程度だが、確実に家にいる時間が多くなった。

それまでは、どこかに出かけると、適当に食事をしていたが、お昼には必ず家に帰ることによって、一日が寸断されるようになった。もっとも、ゆーたと二人で「思いっきりテレビ」を見ながら、「健康効果」を云々する時間は、又楽しいものだったが。

:\*:~'° 。.:\*:~'° ° ' .:\*:~. .:\*:~'° 。.:\*:~'~\*:

プーニャとミュウという新しい家族が増えた。

こいつらは我が家の暴走族。二人仲良く(?)家の中をかけずり回る。

ゆーたは後少しで、ボスをやっつけるところで、ゲームをリセットされた。僕もパソコンを作っているとき、何度も「あわや!」という状況に遭遇した。女房は、作りかけの正月飾りが、絶好の遊び道具になっていた。

でも、二人を怒ってみたところではしょうがない。やつらには、罪の意識など毛頭ないのだから。ただ寝

て、食べて、走り回って……。それだけの存在なのだから。だからこそ、僕たち家族の心を穏やかにさせてくれるのだろう。

ゆーたによく言う。

「プーニャとミュウのやることだから、怒れないよなあ」と。

それはそのまま「ゆーた」に置き換えることができる。

そう、僕は随分とゆーたの事を許せるようになってきたと思う。

:.:.:'° 。 .:.:.'° ° ' .:.:.. .:.:.'° 。 .:.:..:.\*:

ゆーたは「今年はずっと起きている！」と言って下のおじいちゃん、おばあちゃんの所に行ってしまった。女房は、ホットカーペットに横たわって、寝てしまった。テレビを消し、ようやくいつもの大晦日がやってきた。

外に出てタバコを吸ってきた。

空気がシンとしている。寒さがしみる。

思わず、今こうしている間にも、飢えや寒さで命を奪われている世界の人たちの事を思い浮かべた。

同時に「暖かさ」は部屋の温度だけではないんだ、と思った。

:.:.:'° 。 .:.:.'° ° ' .:.:.. .:.:.'° 。 .:.:..:.\*:

来年の今頃、僕はどこで何をしているのだろうか？ そして何を思っているんだろう……？

結局、毎年思うことは同じなのだ。

今よりも、少しでも自分のことを好きになっていられるように……と。

気がつけばこの「ぼちぼちいこっ」も発行を始めて、三年がたちました。

随分とムラのあるメールマガジンですが、こんなものでしょうね。

焦らず、あわてず、ぼちぼちと……。

みなさん、よいお年を……。

OSM